

## 福岡市教育委員会報告 資料②

### 日本語と教科の統合学習における目標設定・ 効果的な支援の方法について

福岡市教育委員会学校指導課  
主任指導主事 西村 綾子

#### 1 JSL とは

JSL=Japanese as a second language

第2言語としての日本語

生活に必要なことば

- 日常のコミュニケーションのための言葉
- ・ 学習活動に参加できるようになるためのことば

#### 2 JSL カリキュラム（日本語指導と教科指導との統合）とは

##### ○ ねらい

日本語の習得を通して学校での学習活動に参加するための力の育成を目指したもの。

「少しわかる」「何となくわかる」から、「よくわかる」まで理解を深めるために、日本語による他者とのやり取りの場を保障し、自分が理解したことを日本語で産出する力をつけていく経験を積み重ね、「日本語で学ぶ力」を育成する。直接体験等に基づいた学習を重視。

「教科の内容」と「日本語」を切り離さず、両方を学んでいく。

##### ○ トピック型

教科を問わず「学習場面」で必要となる日本語の表現を学ぶ。

「体験」→「探求」→「発信」という学習活動に日本語で参加するための「学ぶ力の育成」をめざすもの。

##### ○ 教科志向型

各教科の授業の構造に応じ、各教科の学習に参加するための力の育成をめざす。

各教科特有の「活動」「授業展開」「語彙・表現」などを、その教科の内容を学ぶ中で学習す

るもの。

#### 3 「教科志向型」の授業づくり

##### ① 目標設定

教科の目標と日本語の目標の2つを考える。

☆教科の目標：在籍学級の目標と対象児童の実態を考慮

☆日本語の目標：教科書や学習活動でポイントになる日本語を考える。  
→AUも参照して・・・

児童の実態に即して

→ 今の日本語の力は？

→ 在籍学級での授業をイメージした時に、どこで、何につまずくか？

→ 在籍学級での授業に参加できるようになるためには、どんな力が必要か

→ この学習内容を学ぶ中で、日本語としての学び（他にも広がり使えるようになる力）は何か？

→ 教科の目標は？ 在籍学級と同じではない！

「絶対に身につける力」は何？

##### ② 学習内容を決定

どんな学習活動を設定する？

どんな支援があれば参加できる？

##### ③ 効果的な支援を

スキャフォールディング（足場づくり）

《5つの支援》

理解支援

表現支援

記憶支援

自律支援

情意支援

##### ④ AUの活用

AU=Activity Unit

学習場面でみられる「日本語で学ぶ力」を単位化し、整理したもの。

→ 思考する・表現する・・・その学習活動に必要な日本語表現は？確認できる。